

南区 区域まちづくり事業 効果検証シート

事業名称		実施主体			
南区子どもウェルビーイングシステム事業		南・子育て支援課			
事業目的	事業内容	活動指標	R3	R4	R5
<p>子ども虐待の未然予防に力点を置く事前予防を推進していく。地域の公民関係機関と連携のもと子育て世代の子ども虐待に対する意識のボトムアップをはかる。また、子どもの一連の成長過程においての切れ目のない包括的な支援を提供するために、養育者・南区の子ども・学校等地域支援者へ子どもの権利を保障し健やかな成長を支援する事業を展開。引き続き子ども虐待対応のアプローチについても、未然予防の視点をもって取り組み、啓発をしていく。</p>	<p>・子どもを支援 子どもの自己肯定感、自己有用感の向上を支援するプログラムを展開すると同時に、プログラムを展開できる職員のス��の向上にも取り組む。 ・養育者への支援 法改正で禁止された体罰についての理解を促し、子どもの安心安全が向上することでウェルビーイングが向上することを養育者自身が安心安全の中での子育てができるように支援していく。 ・学校等・地域支援者へ支援 昨年度に区内教育機関等と子ども支援に取り組む『南区子どもサポートプラットフォーム』を創設。区内教育機関との連携を強化し、地域支援者と情報共有することによって地域の子どもの支援につなげていく。</p>	<p>参加者へのアンケートによる満足度(満足)</p>	<p>90.4%</p>	<p>96.5%</p>	<p>94.5%</p>
①妥当性		②協働の視点		③インパクト	
◎	<p>児童福祉法が改正されしつけによる体罰は禁止となった。このことを区役所としても区民に対して継続して広報啓発が必要であると感じる。</p>	◎	<p>子ども虐待の未然予防は行政だけではできない。ありとあらゆる関係機関との連携を模索し、区民と協働できるような事業を進めることができた。</p>	△	<p>子ども虐待のニュースが流れない日はないほど子ども虐待の件数は右肩上がりではあることに対して、世間の関心はまだまだ低い。しかし、行政がインパクトをもって区民に啓発ができていないという側面もある。</p>
⑤自立発展性		④効率性			
○	<p>本事業の目的は子ども虐待を発生後の対応から未然に防止をすることにあり、子ども虐待の第一次予防を区民との協働で行政も取り組んでいく必要があるため、関係機関との連携なくしては発展はないと考えている。</p>	◎	<p>効率性を求めて解決していく事業ではないと考える。しかし、その中でもより区民にとっての自分事になるような方策を考えていく必要がある。</p>		
総合評価					
○	<p>新型コロナウイルス感染症が5月より5類へと移行したことによって、急速にアフターコロナが進み、社会の中で一気に対面の行事が開催され、本事業の子育て支援も完全に対面へと移行した。講座などの参加人数も徐々にコロナ禍前の状況へと戻ってきたようである。その中で参加者の声から感じるのが、相談内容の二極化でコロナ禍前よりも相談ニーズは複雑多様化し深刻化している場合もある。行政として、コロナ禍の影響はこれから表面化していくものもあると想定して対応していく必要を感じている。また、妊娠出産から18歳までの切れ目のない支援を展開していく中で、小学校就学後の区民の役所との接点が課題として浮彫になってきているので、今後はこの部分についてももしっかり本事業の中で検討していくべきと考える。</p>				
今後の方向性(課題、改善提案等)					
<p>拡充 継続 見直し 廃止</p>	<p>『子どもの育ちを応援するよ!』とテーマを掲げ4年が経過した。南区子育て支援課は子ども虐待対応は事後対応から未然予防にすることを念頭に事業を展開している。これについては区役所が今後も継続的に取り組んでいく必要がある。また、令和4年9月に創設し運用を開始した『南区子どもサポートプラットフォーム』は、南区内の公立小中学校と南区役所子育て支援課が連携を強化、学校連携担当職員が学校に足を運び普段の学校の雰囲気や様子を知り、また先生方から学校の状態を聞かせていただくことで、子どもの状況を把握し、お互いに子どもを支えていくことを確認、本取り組みにおいても継続し南区の子育て世代をサポートできる体制を構築していく。令和3年度から始まった区政策会議も、今年度から第2期がはじまり、子育て・教育、健康長寿などにおける南区ウェルビーイング総合プロジェクトの中でも子どもをとりまく環境についての議論もあり、本事業もこのプロジェクトに位置付けられているところであるので、関係機関との連携をより一層はかり、南区の子どもたちのために、子育て世帯のために取り組んでいく。</p>				